

コンピューター・メディア・コミュニケーションを用いた 大学英語コースデザインとその有用性

ティム マーチャンド¹ 阿久津 純恵²

¹桜美林大学 基盤教育院 〒194-0294 東京都町田市常盤町 3758

²桜美林大学 基盤教育院 〒194-0294 東京都町田市常盤町 3758

E-mail: ¹marchand@obirin.ac.jp ²smakutsu@obirin.ac.jp

概要 本稿は、時事ニュースと Computer-mediated Communication (CMC) を用いた大学英語クラスの実践報告である。時事ニュースのリーディングとブログ形式によるライティングタスクを組み合わせた英語コースの有用性を、コーパスおよび学生フィードバックを使用した分析によって考察することを目的としている。ウェブ上の時事英語ニュースという生教材を用いる有効性、ブログという意見交換形式により学生の英語ライティングに対する心理的負担を軽減する可能性、さらに、コーパス分析を用いて Common Error としてフィードバックを与える教育的効果について実践報告し、CMC を用いた大学英語コースデザインの有用性について、主に学生への動機づけという観点から、その有用性と課題を論じる。

Computer-Mediated Communication as a Motivational Learning Tool for University English Courses

Tim Marchand¹ Sumie Akutsu²

¹J. F. Oberlin University 3758 Tokiwa-machi, Machida-shi, Tokyo 194-0294 Japan

²J. F. Oberlin University 3758 Tokiwa-machi, Machida-shi, Tokyo 194-0294 Japan

E-mail: ¹marchand@obirin.ac.jp ²smakutsu@obirin.ac.jp

Abstract This paper describes an innovative curricular cycle that uses a website of news-based materials in a course for Japanese university students. Students are asked to read a current news story each week and, after a classroom session, write their reactions to the story on the class blog. A corpus analysis is conducted on the online comments, and the results are compared to a reference corpus of online native speaker discussions. The paper will discuss the findings of this analysis in terms of L1 interference, and outline how these results are used to produce educational materials sensitive to the needs of the students in the next cycle of classes. The paper argues that this method of course delivery has a positive influence on learner motivation in three ways: the recent news stories provide interesting, authentic materials for the students to study; the online mode of delivery allows students to build their confidence in expressing themselves in English away from the pressures of the classroom; and finally, by highlighting errors that are common to the group rather than individuals, students feel less anxious about their own mistakes in writing and possibly in speaking. The paper concludes that this type of web-based course is effective as a collaborative learning tool for university students to engage with the materials effectively and enhance their learning experience.

1. はじめに

近年、インターネット、スマートフォンなどの発達、普及によって、ソーシャルネットワーキングサービス(以下 SNS)が、コミュニケーションの重要なツールとして認知されるようになった。本稿では、このようなコンピューターを媒体としたコミュニケーションを、英語教育に活かす有用性について論じる。現代におけるマルチメディア環境の中で、時事英語ニュースと Computer-Mediated Communication (以下 CMC) を使用して英語のコミュニケーション能力を養成する授業実践について報告し、主に学生の動機付けという観点から、CMC と学習者コーパス分析を用いた大学英語コースデザインの有効性を考察する。

2. 英語教育と CMC

語学教育におけるデジタルメディア活用については、これまでに多くの報告がなされているが(Arena & Jefferson, 2008; Carney, 2007; Johnson, 2004; Chuo & Kung, 2002)、Alm (2006)は、学生がすでに母語で行っているブログや SNS の機能に注目し、これらを語学教育に取り入れる有用性を論じている。CMC 等のデジタルメディアを有効利用することによって、学生が「自分たち自身の言葉」でコミュニケーションをはかり (Erbbaggio et al., 2010)、外国語学習の効果がさらに高められることが大きく期待されている。

3. CMC を用いた大学英語コースデザインとその実践

本報告は、東京にある2つの大学で実践された英語コースに関するものである。時事英語という科目の枠組みの中で、時事ニュースという生教材と CMC というコミュニケーションツールを使用してシラバスがデザインされている。英語専攻ではない学生の動機付けとニーズに配慮し、さらに大学の英語クラスとしての妥当性も鑑みた上で、クラスウェブサイトを中心とした英語クラスが構築されている。

3.1. 日本の大学英語教育と授業シラバス

日本の大学英語教育においては、1年間ないし2年間にわたり、英語が必修科目として設定されている (Butler & Iino, 2005)。大学全体として統一英語カリキュラムを提供する大学がある一方で、大部分の大学は、学部ごとに独自のカリキュラムを持ち、さらに授業シラバスについては、個々の教員にその内容が委ねられている (Marchand, 2011)。

本稿は、商学部と法学部の学生を対象とした英語ク

ラスの実践報告であるが、シラバス作成段階においては、英語学習へのニーズとモチベーションという2つの点において大きな懸念があった。特に、クラス内での意見の発信や交換という点における問題は広く報告されており (Anderson, 1993; Williams, 1994; Doyon, 2000; Marchand, 2012)、この問題点を克服するために時事ニュースと CMC を用い、Willis & Willis (2007)の提唱するタスクサイクルをもとにしたシラバスデザインが採用された。(表1)

表1 タスクサイクル

Focus on meaning	Warm up	<ul style="list-style-type: none"> • Introduce vocabulary • Prime schemata • Add communicative element
Focus on language	News article	<ul style="list-style-type: none"> • Current news topic • Highlight vocabulary
Focus on form	Comprehension check	<ul style="list-style-type: none"> • Questions focus on comprehension and on particular grammar/lexical patterns
Report	Student opinions	<ul style="list-style-type: none"> • Students write their reaction to the news topic
Review	Vocabulary quiz	<ul style="list-style-type: none"> • Quiz on topic words and common words • Reinforce grammatical/lexical patterns

3.2. 生教材としての時事ニュース

教材は、前週あるいは前々週におこったニュースの中から、一つの時事ニュースが選択され、作成される。毎週、異なるジャンルからのニュースが教材として提示されるが、コンテキストの中で語彙やフレーズの学習をすることができるよう、オリジナルのニュース記事が、加筆、修正され、さらにターゲットとなる語彙に注がけられている。生教材を用いる際に注意すべき点に、語彙や内容理解における難易度設定が挙げられる (Bacon & Finneman, 1990)。この点については、学習者の語彙レベルに配慮して記事に加筆修正を加えるだけでなく、前述したタスクサイクルを採用して、学習者を段階的にニューストピックへと導き、さらにウェブ上に教材を提示して、学生が授業の前後に自由にアクセスして自主学習できるようにすることで (Erbbaggio et al., 2010)、生教材への不安を軽減する工夫を施した。

3.3. CMC を用いた意見交換

語彙の学習とニュース記事の理解に続いて、学習者には自分の意見を考えるタスクが与えられる。前述したタスクサイクルの一つであるこのレポートについては、ウェブサイト上にディスカッションフォーラムを形成し、学生がブログ形式で自分の意見を書き入れることで、各自が意見を書き込むだけでなく、学生間で意見の交換ができるようになってきている。匿名で行われるこの CMC を用いたディスカッションが、ニュースの理解を促進するだけでなく、個々の学生の英語発信力を養成し(Camean & Haefner, 2002)、さらに学生同士のコミュニケーションを促していく役割を担っている。

3.4. CMC を用いた学習者コーパス作成と教材開発への応用

CMC を用いて、学生同士が意見交換をすることで、教員はファシリテーターとなるだけでなく (McGrath, 1998)、さらに CMC コーパスを作成することで、フィードバックの与え方を工夫したり、教材開発に活かしたりすることができるようになる。以下に、その一例を報告する。

3.4.1 CMC を用いた学習者コーパス作成と分析ツール

CMC を使用したライティングの利点の一つは、学生のコメントがすでにデジタル化されているため、比較的容易に学習者コーパスを作成できる点にある。さらに、時事ニュース使用の利点として、実際のウェブニュースサイトには、同等の機能を持つフォーラムが多くみられる点にある。そこで、レファレンスコーパスとして、BBC ウェブサイト上のフォーラム *Have Your Say* から、ネイティブスピーカーコーパスを作成し、比較対象とした。

これらの学習者コーパスとネイティブスピーカーコーパスを、無料で公開されているコンコーダンスソフトウェア AntConc を用いて比較した。この際に、コーパスのサイズに大きな隔たりがあるため、ネイティブコーパスから、学習者コーパスと同等サイズのサブコーパスを作成し、分析に用いた。(表 2)

表 2 コーパスサイズ比較

	Learner corpus	Native sub-corpus	Native corpus
Number of comments	2,023	1,740	23,201
Number of tokens	110,646	109,340	1,529,295

3.4.2. コーパスを用いた学習者英語分析

学習者コーパスとネイティブスピーカーコーパスを比較することにより、日本人学生の英語の特徴やコモンエラーを分析し、さらにその結果をクラス全体の傾向として提示することで、学習者の英語の誤りに対する心理負担を軽減しながら、フィードバックを与えることができる。

まず、コンコーダンスで、学習者コーパスとネイティブスピーカーコーパスを比較することで、学習者英語に特徴的な高頻度語彙を抽出するキーワードリストを作成した。コンコーダンスソフトウェアで作成することができるこのキーワードリストは、対数尤度比指数を用いた **Keyness** という特徴語指数の高低で示される。Keyness の高い語彙は、コーパスにおいて過剰使用される傾向がある特徴的な語彙であることが分かる。時事英語ニュース記事についてのコメントということで、記事に使用されている固有名詞が多くみられるため、上位語 30 語を、学習者英語の特徴とコモンエラーという観点で分析していくと、**I**、**think**、**because**、**agree** が、学習者英語で特徴的な使い方をされていることが分かった。(表 3)

表 3 キーワードリスト

Keyword Ranking	Learner corpus against Native sub-corpus	Keyness
1	I	6213
2	think	1202
14	Because	302
23	because	207
24	agree	197

3.4.3. コーパスを用いた学習者英語分析

学習者コーパスににおいて、上位 2 語 “I think” については、フレーズの多用だけでなく、文末にカンマを伴って使用する “,I think” の使用も確認された。

(表 4)

表 4 I think の使用頻度比較

Raw Frequencies	Learner corpus	Native sub-corpus
I	4,539	1,833
I think	1,367	142
,I think.	36	1

特に、アカデミックライティングではないライティングの指導において、誤用ではない “I think” の多用につ

いては注意が必要であるが、クラス内フィードバックとして、多用される傾向として指摘し、同等表現として使用可能な “It seems to me that”、“In my opinion”、“I feel/believe that”等の表現を導入することが考えられる。さらに、“I think”の文末使用に関しては、L1の影響も考えられる点を指摘し、“I think that”の使用を促す指導も有効である。

さらに、Because の使用については、以下のような結果が得られた。

表5 because の使用頻度比較

Raw Frequencies	Learner corpus	Native sub-corpus
because	728	151
Because	217	8
Because,	22	1

学習者コーパスでは、文頭に“Because”を置く構文が好まれて使用されているだけでなく、70%以上の文が fragment 文であり、主節を伴っていないことが明らかとなった。“Because”で導入された従属節のみで、主節を伴っていないこの文章のスタイルの傾向は、“because”を「なぜならば」という意味の副詞と誤用していること一因があると考えられる。このことは、カンマを伴って副詞として使用していると思われる “Because,”の誤用が多く見つかったことから推測される。これらの誤用例から、英語ライティングにおいては、“because”の正確な文法的用法の再導入が必要であることが分かった。

3.4.4. コーパスを用いた学習者英語分析と教材開発

学習者英語の誤用分析を用いて、教材を作成し、コースデザインのサイクルに活用する試みも行った。特に、使用頻度の高かった動詞の中で、agree の誤用に注目し、コンコードンスラインを分析した。

表6 学習者の agree/disagree 使用

Use of agree/disagree	Percentage (%)
Correct	23
Preposition error	43
Determiner error	33
Other error	10

使用頻度が高いにもかかわらず、約 20%の使用例を除いては、前置詞や冠詞のエラーがみられ、非常に誤用

の多い表現であることがわかった。特に、agree や disagree を他動詞として誤用し、必要な前置詞が抜け落ちている例が大変顕著にみられた。

表7 学習者の agree 誤用例

Preposition error	However, I think bullfighting is a cruel sports too. So, I understand their thoughts and I agree them.
Determiner error	I agree with Germany policy. Nuclear plants have a bad influence for people. Japan also need same policy.
Other error	I cannot agree that abandoning nuclear power and supply energy by the alternative power generation. Because the energy used under the present situation considerably depends on nuclear power.

この誤用を正すために、クラス内でコモンエラーとして指摘するとともに、補助教材を作成し (Appendix 1)、agree/disagree の指導を行ったところ、指導後のコメントにおけるエラーの割合は1%にまで下がった。

このように、学習者英語の傾向やエラーを、学習の発達段階における一つの特徴やコモンエラーとして提示することで、学習者の心理的負担を軽減するだけでなく、教員にとっても、学習者英語の分析に基づいて的確な指導を行う教材開発が可能になる点において、コーパスを用いたフィードバックは非常に有効であると考えられる。

4. 学生フィードバックから考察する CMC の有用性

一年間のコース終了時に、グーグルドキュメントを使用した日本語によるコースアンケートを実施し、2 大学 2 クラスで、合計 62 名の学生の回答が得られた。学習者の英語力や英語学習歴、英語学習に対するモチベーションなどに関する質問と、本コースに関する質問事項を、5 段階評価と自由回答とによって調査し、主にモチベーションという観点で分析を行った。

4.1. CMC の教育的効果

アンケートの結果、CMC を用いたブログ形式の意見記述に関して、ほとんどの学生が、英語で意見を述べるモチベーションの上昇につながったと、肯定的にとらえているという結果が明らかになった(図1参照)。授業を履修した学生のほとんどにとって、CMC を用いた英語クラスは初めての経験であり、ログインの仕方や英文の入力等に戸惑っていた学生がいたことや、意見の表明や交換が苦手だと報告されている日本人学生の特徴を考え合わせると、CMC は学生の動機付けに非常に有効であったと考えられる。

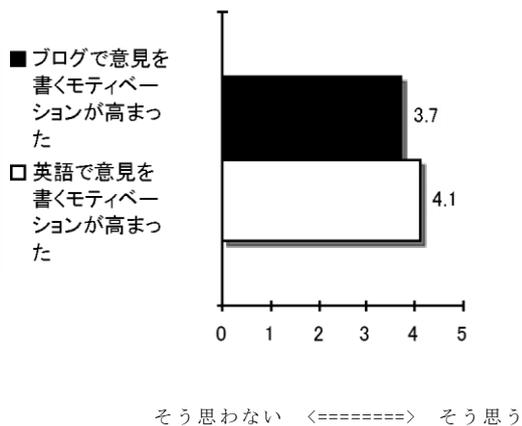


図1 ブログ形式の意見記述に関するモチベーションの上昇について

4.2. 学生フィードバックからの示唆

個々の学生の自由回答欄には、様々な教育的効果を示唆するコメントがみられた。

時事英語ニュースを教材とすることに関しては、時事ニュースに対する興味関心が高まった点と、時事ニュースに使用される生の英語や実用的語彙の学習ができた点において、授業を好意的に受け止めているコメントが多くみられた。

- 英語を学習する際の教材としてニュースを使用するのは、非常に良いことだと思います。世界のニュースを授業で学ぶことで、英語だけでなく海外の国、人、文化などさまざまなことを学べたと思います。
- 時事ニュースを取り入れた授業によって、「生きた英語」に触れる機会ができた点は非常に良かったと思う。受験英語では決してお目にかかれなような単語を覚えることができ成長したと思う。
- 記事が時事ニュースだったので、興味を持って読むことができた。外国の新聞に載るような記事を英語で読めたので、中学や高校でやってきた英単語よりも実用性が高い単語を勉強できてよかったと思う。もっと語彙力を増やして、英語の記事でも簡単に読めるようになりたいと思う。

また、CMCを用いたライティングについては、匿名のブログ形式における意見の交換という点において、自由な意見の表明だけでなく、より注意して英語を書く動機付けになっていることが分かる、以下のようなコメントがみられた。

- ニュースとブログを使用したライティングの授業では、他の生徒には匿名で公表されるため、他の生徒からはだれがどのような意見を持っているかは分からないため、気軽に本心を書くことが

でき、モチベーションの維持に貢献していると思う。また、匿名ではありながらも、自分のコメントが先生だけでなく、他の生徒にみられるため、ある程度は文法等を意識して、きちんとした意見や文章を書こうと思うので、英語力の向上及び維持に貢献していると思う。

- 授業で扱ったニュースに対する自分の意見をサイトで書いたりするのは、モチベーションが常に高くなったかたれてよかったと思います。さらに、友達の見見も見ることができるので、自分とどこが違うのかを比較することができ、もっと頑張ろうと思える。逆に、みんなに見られるためわかりやすい意見を述べようとして、英語力も上がると思う。

さらに、授業の時事ニュース教材がウェブ上にアップされ、各自が自分のペースで授業の前後に予習や復習ができ、またブログへのコメントは自分の学習のスケジュールに合わせて行うことができる点で、学生の英語学習の習慣を形成する点でも効果があった。

- 大学に入って受験期よりも英語を読む機会が減ったので、毎週英語の記事を読んで感想を書くという習慣がつくという点で意義があった。
- 毎週ニュースにコメントをするということで、時事ニュースに興味を持つと同時に英語を日ごろから読み書きするようになった。とてもありがたい。
- ブログを利用することにより、パソコンの操作に慣れ、インターネットでニュースを見る機会が増えました。また月曜日の授業の準備をする必要があります、いつもは英語など読まない週末に英語を読む習慣がつき、勉強をしない日が減った。
- 英語でニュースを読んだり、自分の意見を述べたりすることはこのような授業で機会がないとなかなかやらないのですごく勉強になりました。ニュースに出てくる単語は普段会話で使わないような難しい単語も多く、ひとつずつ調べて読んでいくと新しい単語も勉強できてよかったです。この授業のおかげで海外のニュースに興味を持ち、毎週ニュースを調べてくる宿題のときに海外のニュースを英語で見ようになりました。また、テレビでも積極的にBCCやCNNのニュースを聞いて、聞き取れなかったところは画面に出る字幕を見て学びました。今までとは少し違った新しい面から英語を勉強でき、とても自分のためになった1年だったと思います。

学生のコメントからは、英語でニュースを読むことも、英語で意見を書くことも、どちらも難しいタスクであったということが示唆されている。しかし、大部分の

学生のコメントから、インターネットを使用した生の時事ニュース英語学習は、その難しさと新鮮さゆえ、大学英語教育という場においては、学生の動機付けに役立ったことが分かった。

5. まとめと課題

CMC を使用した大学英語コースデザインの有用性については、タスクを用いた学習者中心のコミュニケーションなコースとして評価されると考える。CMC 上での学生同士のコミュニケーションは、意見の発信や交換という点において効果的であり、英語学習に対する動機付けにおいても相乗効果があった。CMC コーパスを用いた、より実践的な言語学習材料の開発が今後の大きな課題である。また、学習者のアンケート自由記述の中にもみられた意見・要望であるが、各学生の文法的誤りに対するフィードバックの与え方やコメントの評価基準の設定なども検討が必要な課題である。さらに、紙と鉛筆を使用した授業形式を好む学生や、匿名であっても自分の意見が他の学生に読まれることに躊躇がある学生もみられた点をふまえ、SNS や CMC が学習者の日常生活において実際どの程度普及しているのか、またネット上での意見の発信や交換にどのような問題を感じているのか調査し、各学生のコミュニケーション力向上につながるよう注意深く英語コースをデザインし、指導していくことが必要だと考える。

文 献

- [1] Alm, A. (2006). CALL for autonomy, competence and relatedness: Motivating language learning environments in Web 2.0. *The JALT CALL Journal* 2(3) 29-38.
- [2] Anderson, F. (1993). The enigma of the college classroom: Nails that don't stick up. In P. Wadden (Ed.), *A handbook for teaching English at Japanese colleges and universities* (pp. 101-110). New York: Oxford.
- [3] Anthony, L. (2011). AntConc (Version 3.2.2) [Computer Software]. Tokyo, Japan: Waseda University. Available from <http://www.antlab.sci.waseda.ac.jp/>
- [4] Arena, C., & Jefferson, C. (2008). Blogging in the language classroom: It doesn't "simply happen". *TESL-EJ* 11(4). <http://tesl-ej.org/ej44/a3.html>
- [5] Bacon, S. M. & Finneman, M. (1990). A study of the attitudes, motives and strategies of university foreign-language students and their disposition to authentic oral and written input. *Modern Language Journal*, 74, 459-73.
- [6] Blake R.J. (2008) *Brave new digital classroom: Technology and foreign language learning*. Washington DC: Georgetown University Press.
- [7] Brown. D. (2006). *Principles of language learning and teaching*. Englewood Cliffs, NJ: Prentice Hall Regents.
- [8] Butler, Y. G. & Iino, M. (2005). Current Japanese reforms in English language education: The 2003 Action Plan. *Language Policy* 4(1), 25-45.
- [9] Carmean, C. & Haefner, J. (2002). Mind over matter: Transforming course management systems into effective learning environments. *EDUCAUSE Review*, 37(6), 27-37.
- [10] Carney, N. (2007). Language study through blog exchanges. In *Wireless Ready Symposium: Podcasting Education and Mobile Assisted Language Learning*, NUCB Graduate School, Nagoya, Japan. <http://wirelessready.nucba.ac.jp/Carney.pdf>
- [11] Chun, D. (2008) Forward. In Blake, R.J. (2008). *Brave new digital classroom: Technology and foreign language learning*. Washington DC: Georgetown University Press.
- [12] Chuo, T. & Kung, S. (2002). Students' perceptions of English learning through ESL/EFL websites. *TESL-EJ* 6(1). <http://tesl-ej.org/ej21/a2.html>
- [13] Doyon, P. (2000). Shyness in the Japanese EFL class. *The Language Teacher*, 24(1), 10-11.
- [14] Erbaggio, P., Gopalakrishnan, S., Hobbs, S., & Liu, H. (2010). Enhancing student engagement through online authentic materials. *International Association for Language Learning Technology* 42(2). http://www.iallt.org/iallt_journal/enhancing_student_engagement_through_online_materials
- [15] Graves, K. (2000). *Designing language courses: A guide for teachers*. Boston: Heinle and Heinle.
- [16] Johnson, A. (2004). Creating a writing course utilizing class and student blogs. *The Internet TESL Journal* 10(8). <http://iteslj.org/Techniques/Johnson-Blogs/>
- [17] Marchand, T. (2011). Product placement in a process syllabus: Designing a university course in Current Affairs English. In A. Stewart (Ed.), *JALT2010 Conference Proceedings*. Tokyo: JALT.
- [18] Marchand, T. (2012). Reticence in the classroom: examples, causes, and suggestions for improvement. *Obirin Today* 12, 159-180.
- [19] Martínez, A. (2003). A study of the relationship between Spanish undergraduates' motivational factors and foreign language achievement. *Revista de Lenguas para Fines Especificos*, 9-10, 117-138.
- [20] McGrath, B. (1998). Partners in learning: Twelve ways technology changes the teacher-student relationship. *T.H.E. Journal*, 25(9), 58-61.
- [21] Rogers, C. & Medley, F. (1988). Language with a purpose: Using authentic materials in the foreign language classroom. *Foreign Language Annals*, 21, 467-78.
- [22] Williams, C. (1994). Situational behavior and the EFL classroom in Japan. *The Language Teacher*, 18 (5), 10-11.
- [23] Willis, D. & Willis, J. (2007). *Doing task-based teaching*. Oxford: Oxford University Press.
- [24] Willis, J. (1996). A flexible framework for task-based learning. In Willis, D. and Willis, J. (Eds.) *Challenge and change in language teaching* (52-62). Oxford: Macmillan Education.

Appendix 1

Using agree or disagree

Pattern	Notes
1 I agree.	Short, simple, conversational
2 I agree with <i>someone</i> .	Use “with” when you share the same opinion
3 I agree with the / this / 's <i>something</i> .	Be specific – use the/this / 's AND <u>idea</u> / <u>comment</u> / <u>suggestion</u> / <u>policy</u> etc.
4 I agree with the / this / 's <i>something</i> that [S] [V] [O]	Connect the clause with “that”
5 I agree with <i>someone</i> when he/she says that [S] [V] [O]	Detail which part you agree with

Building sentences with agree or disagree.

Obama: “Gay people have the right to get married”.

- 1 I agree.
- 2 I agree with Obama.
- 3 I agree with Obama’s idea.
- 4 I agree with the idea that gay people have the right to get married.
- 5 I agree with Obama when he says that gay people have the right to get married.

Cathy: “Plastic surgery is an unnecessary medical procedure”.

- 1
- 2
- 3
- 4
- 5

Yuta: “I think North Korea is not as dangerous as we think”.

- 1
- 2
- 3
- 4
- 5

Saori: “Japan should close down all nuclear power stations permanently”.

- 1
- 2
- 3
- 4
- 5